



つながり つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和5年10月10日

第26号

江別市教育委員会

総務課・学校教育課

「3小1中」で連携・協働 野幌中学校区 中学校登校 ～合唱交流会見学と作品制作体験～

9月22日（金）に野幌小、東野幌小、野幌若葉小の6年生が野幌中を訪れ、中学3年生の合唱交流会の見学と作品制作の体験活動を行いました。

今回の取組のねらいは、「野中祭活動」の様子を知ることによって中学校生活への不安を解消すること、6年生が中学生の活動を見て、未来像を具体的に描くきっかけとすること、中学生が小学生に合唱を披露することを通して、自尊感情を高めること等です。

初めに中学校の担当の先生から、中学校進学への不安の緩和や中学校生活の楽しさを実感すること、入学後一緒に生活する他校の友達のことを知ること等、中学校登校のめあてについてのお話がありました。

次に、中学生が進行して合唱交流会の見学が行われました。中学3年生の3クラスが1週間後の「野中祭」に向けて毎日練習に取り組んでいる合唱曲を混声3部合唱で披露しました。曲名は、1組が「さくら（合唱）」、2組が「YELL（エール）」、3組が「虹」です。指揮者が礼をしてピアノ伴奏が始まり、すぐに体育館にきれいな歌声が響きました。6年生の子どもたちが、一生懸命歌う先輩たちの姿を真剣な眼差しで見つめていたのが印象的です。

合唱を披露した後は、3つの小学校の代表児童が、「どのクラスも息が合っていて素晴らしいと思いました。」「中学校生活に興味を持つことができたし、これからの生活に生かしていきたいと思いました。」「10月の学習発表会では、中学生の皆さんの合唱に少しでも近づけるように頑張ろうと思いました。」等の感想とお礼の言葉を発表しました。

その後、中学校の音楽科の先生から中学生へのアドバイスと小学生への合唱交流会のまとめがありました。

次に、中学校登校の後半は、「野中祭」でのステンドグラス制作活動を疑似体験する「モザイクアート」の制作を行いました。3つの小学校の混成グループを6つ作り、色を塗った60枚の紙を組み合わせて図柄を完成させていく活動です。グループ内で分担して着色し、相談しながら紙を組み合わせていく作業なので、初対面の相手とも対話しながら進めていく必要があります。制作活動を通して他の小学校の仲間と自然に交流できるように工夫されていました。最後に、モザイクアートが完成すると3つの小学校の「校章」が浮かび上がり、それを見た子どもたちからは歓声と拍手が沸き起こりました。

今回の中学校登校は、小中の先生方で組織する「児童生徒交流部会」が企画し、昨年度の実践の内容を変更して実



中学3年生のきれいな歌声



小学生の素晴らしい感想発表



友だちと対話しながらの作業

施しました。「3小1中」で学校数が多く、学校間の距離がある中学校区ですが、必要に応じて部会内にチームを作る等、様々な工夫をして小中一貫教育に取り組んでいます。



完成したモザイクアート

【中学校登校後の小学生の感想】

- 最初の3年生の合唱はみんなが団結した歌声に感動しました。他校の生徒と交流しながらモザイクアートをするのは凄く緊張したけれど、積極的に話しかけてくれた子がいて嬉しかったです。中学校へは不安しかなかったけれど少し安心することができました。
- 3年生の合唱が透き通っていて美しかったです。指揮者の方も動きがすごかったです。憧れました。中学校に入学するのがもっと楽しみになりました。まだ不安な事もあるけれど、中学校に向けて勉強を頑張ろうと思いました。貴重な体験をさせていただき感謝しています。

吹奏楽部出前コンサート・同じ講師を活用した学習 ～一貫した指導や系統的な指導に寄与する小中連携と小小連携～

6月9日(金)に野幌中の吹奏楽部が野幌若葉小で「ふれあいコンサート」を行いました。これまではPTA活動の一環として中学校の吹奏楽部による出前コンサートが行われており、今年度は小中一貫教育とも関連させて実施されました。当日は中学生の迫力のある演奏が披露され、小学生もリズムに合わせて一緒に身体を動かす等、楽しく盛り上がった演奏会になりました。中学生にとっても演奏や活動へのモチベーションが上がる取組になっています。



吹奏楽部のふれあいコンサート

- 年齢が近い身近な中学生が一生懸命演奏している様子に親しみが持てて良かった。
- 6年生にとっては、1年後の自分たちの姿を想像するのに役立つ機会となり良かった。
- 中学生がとても立派で素敵だった。あの姿を目指したり、あこがれたりする良い機会になったと思う。このような交流が続けられるとよい。

また、9月8日(金)に野幌若葉小、9月12日(火)に東野幌小で、4年生の国語科の教材「ランドセルは海を越えて」の作者である内堀タケシ氏を外部講師としてお招きし、子どもたちとの「フォトディスカッション」が行われました。内堀氏は、日本のランドセルをアフガニスタンの子どもたちへ届ける活動を20年以上続けている写真家です。野幌小は日程が合わなかったため、残念ながら実施できませんでしたが、同校区内の小学校間の教育課程上の連携を図る取組として行いました。他にも野幌中学校区では、北海道情報大学と連携したプログラミング学習や、各校で時期を揃えた校区一斉あいさつ運動、秋季休業を利用した自由参加型の部活動体験を行う等、工夫した取組によって「一貫した指導」を進めています。



野幌若葉小と東野幌小での「フォトディスカッション」の出前授業



情報大学と連携した
プログラミング学習
(東野幌小)